

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application 1999年 9月16日

出 願 番 号
Application Number: 平成11年特許願第262308号

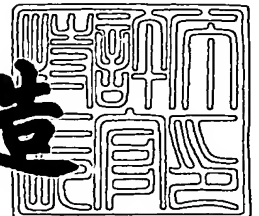
[ST.10/C]: [JP 1999-262308]

出 願 人
Applicant(s): 浜松ホトニクス株式会社

2002年 3月29日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3022320

【書類名】 特許願

【整理番号】 HP99-0307

【提出日】 平成11年 9月16日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61B 1/00
A61B 5/00

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県浜松市市野町 1 1 2 6 番地の 1 浜松ホトニクス
株式会社内

【氏名】 竹山 周良

【特許出願人】

【識別番号】 000236436

【氏名又は名称】 浜松ホトニクス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100088155

【弁理士】

【氏名又は名称】 長谷川 芳樹

【選任した代理人】

【識別番号】 100089978

【弁理士】

【氏名又は名称】 塩田 辰也

【選任した代理人】

【識別番号】 100092657

【弁理士】

【氏名又は名称】 寺崎 史朗

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014708

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 微弱光カラー撮像装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被写体からの微弱光をカラーで撮像する微弱光カラー撮像装置であって、

前記被写体を照明する照明手段と、

前記被写体に励起光を照射することにより蛍光を発生させる励起手段と、

前記被写体からの微弱光の赤、緑および青の各波長成分をそれぞれ透過させるフィルタ手段と、

前記フィルタ手段を透過した前記被写体からの微弱光の前記赤、緑および青の各波長成分の光強度を増強する増強手段と、

増強された前記被写体からの光の前記赤、緑および青の各波長成分の画像を撮像する撮像手段と、

撮像された前記赤、緑および青の各波長成分の画像信号をそれぞれ記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された前記赤、緑および青の各波長成分の画像信号を重畳し、カラー画像信号に変換する変換手段と、

前記カラー画像信号をカラー画像として表示するモニタ手段と、

前記照明手段の出力を可変にする出力可変手段と

を備えることを特徴とする微弱光カラー撮像装置。

【請求項 2】 前記出力可変手段は、前記被写体で反射・散乱等することにより前記撮像手段に入射する前記照明手段からの光の強度が、前記被写体からの前記撮像手段に入射する蛍光の光強度と同等または同等以下となる範囲において、前記照明手段の出力を可変にすることを特徴とする請求項 1 記載の微弱光カラー撮像装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、被写体からの微弱な光を撮像する微弱光カラー撮像装置において、

特に被写体からの蛍光を強調して撮像することを特徴とする微弱光カラー撮像装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、正常細胞よりもガン細胞に高く蓄積される光感受性物質を生体に注射し、特有の波長の光に光感受性物質が励起されることにより蛍光を発生する性質を利用したガン細胞の光線力学的診断法（PDD）や、特有の波長の光に光感受性物質が励起されることにより一重項酸素を発生してガン細胞を破壊する性質を利用した光線力学的治療法（PDT）が新たなガンの診断方法および治療法として注目を集めている。

【0003】

PDDおよびPDTにおける光感受性物質としては、ヘマトポルフィリン誘導体（HpD）が多く利用されている。HpDを利用したPDDについて説明すると、HpDは波長405nmの励起光を照射することにより波長630nmと690nmにピークを持つ蛍光を発する。このため、HpDを蓄積させたガン細胞とその周辺に波長405nmの励起光を照射すると、HpDがより多く蓄積されているガン細胞では波長630nmと690nmにピークを持つ蛍光を発生するが、HpDがほとんど蓄積されていない正常細胞は蛍光を発生しない。この蛍光を検出し、ガン細胞の部位を診断する方法がPDDである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ガン細胞からの蛍光は非常に弱く、早期ガンにおいては特に微弱な蛍光しか発しない。そのため、PDDにおける蛍光画像の撮像には光強度を増強するイメージインテンシファイア（I. I.）と呼ばれる光増強管が用いられている。ところが、光増強管を用いると波長情報が失われてしまうため、ガン細胞周辺から得られた光強度の画像からは、画像のどの部分がガン細胞からの波長630nmと690nmにピークを持つ蛍光を示しているのか、それともその他の物質からの他の波長を持つ反射光や蛍光を示しているのか判別することが難しくなる。このため、ガン細胞周辺の画像をカラーで且つ動画で撮像し、ガン細

胞周辺の状態とガン細胞からの蛍光を同時に視認できる装置の開発の要求が高まっている。

【 0 0 0 5 】

カラーで画像を得るためにはカラーカメラを用いれば良いが、ガン細胞からの蛍光のように微弱な光の画像を撮像するするためには、通常のカラーカメラを用いることはできない。従来の微弱光カラー撮像装置としては、冷却 CCD カラーカメラや天文用 3 CCD カラーカメラなどがあるが、冷却 CCD カラーカメラでは静止画像しか得ることができず、天文用 3 CCD カラーカメラは装置が大きく、且つ高価であるため、汎用の装置に用いるとその装置が非常に大型で高価になってしまうといった問題点がある。

【 0 0 0 6 】

また、従来の技術として、被写体に照明光を照射したときの画像と被写体に励起光を照射したときの画像とを別々に撮像し、スーパーインポーズすることにより、被写体周辺およびガン細胞からの蛍光の画像を一つの画像とし、この画像を繰り返し撮像し表示することで動画を得て被写体を観察する手法がある。しかし、この手法は厳密には同一時点での照明光および励起光を照射した被写体を撮像していないため、PDTにおけるガン細胞の死滅による蛍光の消失などをリアルタイムに観察することが不可能であるといった問題点がある。

【 0 0 0 7 】

そこで本発明では、検出器一つで安価に構築でき、リアルタイムの動画像を得ることが可能で、特にガン細胞に蓄積された光感受性物質からの蛍光を鮮明に撮像できる微弱光カラー撮像装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために本発明の微弱光カラー撮像装置は、被写体を照明する照明手段と、被写体に励起光を照射することにより蛍光を発生させる励起手段と、被写体からの微弱光の赤、緑および青の各波長成分をそれぞれ透過させるフィルタ手段と、フィルタ手段を透過した被写体からの微弱光の赤、緑および青の各波長成分の光強度を増強する増強手段と、増強された被写体からの光の赤、緑

および青の各波長成分の画像を撮像する撮像手段と、撮像された赤、緑および青の各波長成分の画像信号をそれぞれ記憶する記憶手段と、記憶手段に記憶された赤、緑および青の各波長成分の画像信号を重畳し、カラー画像信号に変換する変換手段と、カラー画像信号をカラー画像として表示するモニタ手段と、照明手段の出力を可変にする出力可変手段とを備えることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

本発明によれば、被写体からの微弱光の光強度を増強してリアルタイムに撮像することが可能である。また、微弱光の赤、緑および青の波長成分の画像を、例えば、テレビの垂直同期信号に同期してそれぞれ別々に撮像し、重畳することによって単一のカラー画像を得ることができる。また、照明光の光量を適宜調節することにより、励起手段により被写体から発生した微弱な蛍光が、照明光に埋もれることなく撮像可能で、同時に被写体周辺の様子もカラーの動画で撮像することができる。

【 0 0 1 0 】

従って、出力可変手段は、被写体で反射・散乱等することにより撮像手段に入射する照明手段からの光の強度が、被写体からの撮像手段に入射する蛍光の光強度と同等または同等以下となる範囲において、照明手段の出力を可変とすることが望ましい。

【 0 0 1 1 】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照して本発明の実施形態について説明する。なお、図面の説明において、同一の要素には同一の符号を付し、重複する説明を省略する。

【 0 0 1 2 】

図 1 から図 7 を参照して本発明にかかる第一実施形態について説明する。第一実施形態の概略図を図 1 に示す。この第一実施形態は本発明の微弱光カラー撮像装置を内視鏡 1 1 に適用した装置となっている。図 1 に示すように、第一実施形態の微弱光カラー撮像装置は、被写体 A に対面した 3 種類の光源 2 1, 2 2 および 2 3 を有する内視鏡 1 1 と、内視鏡 1 1 により導光された被写体 A からの微弱光を赤、緑および青の各波長成分毎に増強し撮像するカメラボックス 3 と、撮像

された各波長成分の画像信号を演算して一つの画像を得るRGBコントロールユニット4と、得られた画像を表示・記録するモニタ27、VTR28およびパソコン29と、その他付随する装置類とを備えている。

【0013】

ところで、第一実施形態において、微弱光カラー撮像装置でガン細胞である被写体Aを撮像したい場合、内視鏡11を生体内に挿入した状態で内視鏡11の先端が被写体Aに対面していなければならない。そのため、まず内視鏡11をカラーカメラ12に接続し、被写体Aの位置探索を行う。図1に示すように、内視鏡11は出力可変な白色光源21(Xeランプ)を有しており、白色光源21からの照明はライトガイド(図示せず)により内視鏡11先端に導かれ、生体内部を照明する。カラーカメラ12は、OES TV SYSTEM13を介してモニタ27に接続されている。これにより、内視鏡11が対面している生体内部の画像がモニタ27に映し出される。操作者は内視鏡11を適宜操作し、モニタ27に映し出される画像によって被写体Aを探索する。被写体Aを発見したら、内視鏡11をカメラボックス3の内視鏡11の接続部位にワンタッチ接続する。これにより、内視鏡11は被写体Aに対面し、対面している被写体Aからの微弱光は、内視鏡11の有するイメージガイド(図示せず)によりカメラボックス3に導かれる。その後、第一実施形態における微弱光カラー撮像装置により、被写体Aの観察を行う。ただし、生体内にはあらかじめ光感受性物質であるヘマトポルフィリン誘導体(HpD)が注入されているとする。

【0014】

次に、内視鏡11の構成について説明する。図1に示すように、内視鏡11は、前述した内視鏡11が具備するライトガイド(図示せず)により照明光を被写体Aに照射する出力可変な白色光源21とに、光線力学的診断(PDD)に適用され、励起光を照射することによりHpD特有の蛍光を発生させる励起光源22(Hg-Xeランプ)と、光線力学的治療(PDT)に適用され、治療光を照射することによりガン細胞を死滅させる治療用光源23(エキシマダイレーザ)とを有している。これらからの光は、内視鏡11に付属されている鉗子口11aに挿入された、コネクタ付きファイバ11bによって導光され、被写体Aに照射さ

れる。

【0015】

図2に、出力可変な白色光源21内部の構造を示す。図2(a)に示すように、白色光源21は光源であるXeランプ21aと、Xeランプ21aを集光する集光レンズ21bと、集光された光を遮蔽する遮蔽板21cとを具備しており、遮蔽板21cを通過した光は導光ファイバにより内視鏡11内部に導光される。図2(b)に示すように、遮蔽板21cは縦方向に二等辺三角形の穴部を有しており、光源21aからの光が遮蔽板21cに入射すると、穴部に入射した光はそのまま通過し、それ以外の光は遮蔽板21cにより遮蔽される。そのため、遮蔽板を上下に移動させると、二等辺三角形の穴部の幅に応じて遮蔽板21cを通過できる光量が変わる。この様に、白色光源21が構成されているので、出力を変化させることができる。

【0016】

図3に、HpDを注入したガン細胞を有する生体に、励起光を照射した際の部位別のHpDの蛍光スペクトルを示す。図示のように、ガン細胞（腫瘍）はHpDを選択的に蓄積するため、HpD特有の波長630nmおよび690nmにピークを持つ蛍光を発生している。これに対し、HpDの蓄積量が少ないガン細胞周辺では、ガン細胞よりも強度の低いHpDの蛍光を発生している。正常細胞は、HpDをほとんど蓄積しないため、HpDの蛍光をほとんど発していない。この様に、ガン細胞に選択的に蓄積されるHpDの特性を利用し、HpD特有の波長の蛍光を検出することによりガンの診断を行う診断方法がPDDである。本発明の第一実施形態では後述するように、励起光源22によって被写体Aに励起光を照射し、HpDの蛍光を微弱光カラー撮像装置で撮像し、観測者が蛍光を視認することにより、被写体A周辺におけるガン細胞の診断、つまりPDDを行うことが可能である。また、ガン細胞の位置を確認できたときは、励起光源22を治療光源23と交換してガン細胞に治療光を照射することにより、その場でPDTを行うことも可能である。

【0017】

次に、カメラボックス3の構成について説明する。図1に示すように、被写体

Aからの微弱光は、内視鏡 1 1 によってカメラボックス 3 に導かれる。カメラボックス 3 は、励起光源 2 2 を使用している際に被写体 A から反射・散乱された励起光成分を除去する励起光カットフィルタ 3 1 と、被写体 A からの微弱光を集光する結合レンズ 3 2 と、集光された被写体 A からの微弱光の赤、緑および青の各成分を別々に透過させる RGB フィルタ 3 3 と、RGB フィルタ 3 3 を回転させる回転モータ 3 4 と、RGB フィルタ 3 3 を透過した光を増強する光増強管 3 5 と、光増強管 3 5 によって増強された光をリレーレンズ 3 6 を介して撮像する CCD カメラ 3 7 とを有している。

【 0 0 1 8 】

励起光カットフィルタ 3 1 はフィルタコントローラ 2 4 に接続されており、励起光源 2 2 を使用している際には励起光カットフィルタ 3 1 を内視鏡 1 1 と結合レンズ 3 2 の間に挿入して被写体 A からの微弱光に含まれる励起光成分を除去し、励起光源 2 2 を使用していないときは励起光カットフィルタ 3 1 を移動して内視鏡 1 1 によって導光された被写体 A からの微弱光が直接結合レンズ 3 2 に導かれるように制御されている。また、回転モータ 3 4 は RGB フィルタコントローラ 2 5 に結合されており、後述するように同期信号と同期して RGB フィルタ 3 3 が回転するように制御されている。また、光増強管 3 5 は光増強管電源 2 6 に接続されており、後述するように同期信号に同期して光増強管電源 2 6 が ON・OFF することにより、光増強管 3 5 のゲート機能を動作させるように制御している。

【 0 0 1 9 】

図 4 を参照して、第一実施形態に使用される RGB フィルタ 3 3 の波長透過特性について説明する。RGB フィルタとは R (Red)、G (Green)、B (Blue) の 3 原色の波長の光をそれぞれ透過するフィルタで構成されているフィルタである。図 4 は、RGB フィルタの入射光の波長に対する透過率の関係を示した図であり、赤、緑および青のそれぞれ 3 つのフィルタの波長透過特性を示している。波長が赤、緑および青と短くなるに連れて透過度が高くなっていることがわかる。これは、人間の視感度に合わせた画像を得るために設定された波長透過特性で、得られる画像の色が実際に人間の目で見る画像の色と一致するよ

うに設定されている。

【 0 0 2 0 】

図 5 を参照して、RGB フィルタ 3 3 の構成について説明する。図 5 は、RGB フィルタ 3 3 の構成を示している。分割されたそれぞれの領域は、図 4 において示した波長透過特性を持つ赤の波長成分を透過する R 領域 3 3 a と、緑の波長成分を透過する G 領域 3 3 b と、青の波長成分を透過する B 領域 3 3 c とで構成されている。この RGB フィルタ 3 3 を回転させ、ある一定の位置で光を透過させると、それぞれの領域の波長透過特性に応じた波長成分の光に時系列的に分光することができる。なお、図 4 に三角形で示された印は、後述するように RGB フィルタ 3 3 を回転モータ 3 4 によって同期信号に同期して回転させるときの頭出しの位置を示したものである。

【 0 0 2 1 】

図 6 を参照して、第一実施形態で使用される光増強管 3 5 の波長増強特性について説明する。図示のように、波長 1 0 0 n m から 9 0 0 n m の光に対して十分なゲインを有している。そのため、RGB フィルタ 3 3 を透過した赤から青までの各波長成分の光を増強することが可能である。

【 0 0 2 2 】

次に、RGB コントロールユニット 4 の構成について説明する。図 1 に示すように、CCD カメラ 3 7 によって撮像された各波長成分の画像信号は、RGB コントロールユニット 4 に送られる。RGB コントロールユニット 4 は、通信制御装置 (CCU) 4 1 と、CCD カメラ 3 7 からの画像信号を記憶する RGB フレームメモリ 4 2 と、画像信号の雑音を除去して画質を改善する画質改善装置 4 3 と、画質改善装置 4 3 によって画質を改善された画像信号を、後述するようにそれぞれ画像を取り込む媒体に応じた画像信号に走査変換する走査変換器 4 4 とを有している。

【 0 0 2 3 】

CCU 4 1 は、第一実施形態における微弱光カラー撮像装置を 6 0 H z のテレビの垂直同期信号 (V D) に同期させて作動させるための制御装置である。CCU 4 1 は、RGB フィルターコントローラ 2 5 に頭出し信号を送り、図 4 に三角

形で印されたRGBフィルタ33の頭出し位置が、頭出し信号に同期して回転するように制御している。また、光増強管電源26に光増強管ゲート信号を送り、光増強管電源26をON・OFFさせることにより光増強管35のゲート機能を動作させ、RGBフィルタ33の回転に応じて図5に示したR領域33a、G領域33bおよびB領域33cを透過する有効な光成分のみを増強するように制御している。つまり、図5における分割された領域と領域の境界部分においては、両方の領域を透過した光の成分が混在している可能性があるため、領域と領域の境界部分を透過した光は無効な成分として光増強管35のゲート機能により排除し、各フィルタ中央部分を透過した光のみを有効成分とし、光増強管35によって増強している。

【0024】

CCU41は、さらに、RGBコントロールユニット4におけるRGBフレームメモリ42および走査変換器44を制御している。RGBフレームメモリ42は、CCDカメラ37が時系列的に撮像した赤、緑および青の各画像信号をCCU41から送られてくるCCD電荷読み出し信号に同期してそれぞれ読み出すように制御されており、読み出した各画像信号はそれぞれ対応したビデオフレームメモリ(VFM)に記憶される。走査変換器44は、RGBフレームメモリ42に記憶されている赤、緑および青の各画像信号を画質改善装置43を介して読み出し、1画面のカラー画像として演算する。そして、CCU41からの(R+G+B)読み出し信号に同期して、それぞれ画像を取り込む媒体に応じた画像信号に走査変換する。図1に示すように、第一実施形態において、画像を取り込む媒体はモニタ27、VTR28およびパソコン29である。モニタ27が取り込む画像信号はNTSC方式に、VTR28が取り込む画像信号はY/C信号に、パソコンが取り込む画像信号はRGB信号にと画像信号がそれぞれ走査変換される。ここで、パソコン29は変換されたRGB信号をインターフェース回路(I/F)29aを介して取り込んでいる。

【0025】

次に、図1および図7を参照して、第一実施形態における微弱光カラー撮像装置の作用について説明する。

【 0 0 2 6 】

図 7 は、60 Hz の VD 信号に同期して、赤、緑および青の各波長成分の画像が取り込まれ、各画像が演算されて 1 つのカラー画像を得るまでの動作を各信号毎に図中 (A) ~ (M) で示したタイミングチャートである。被写体 A は、白色光源 2 1 のみで照明され、励起光源 2 2 および治療用光源 2 3 は消灯しているとする。被写体 A からの微弱光は、内視鏡 1 1 によってカメラボックス 3 に導光され、結合レンズ 3 2 によって集光される (このとき、励起光カットフィルタ 3 1 はフィルタコントローラ 2 4 に制御されることによって、内視鏡 1 1 と結合レンズ 3 2 の間から移動している)。集光された微弱光は RGB フィルタ 3 3 に入射し、透過される。

【 0 0 2 7 】

図 7 の時点 t_1 において、(A) に示す頭出し信号が立ち上がり、これと同期して図 4 に三角形で示された頭出し位置から RGB フィルタ 3 3 が回転する。時点 t_1 から t_2 の期間において、(C) に示すように回転している RGB フィルタ 3 3 の R 領域 3 3 a を微弱光が透過する。透過した微弱光の赤の波長成分は、光増強管 3 5 に入射するが、(D) に示すように光増強管 3 5 のゲート機能により、R 領域 3 3 a を透過する有効成分のみが光増強管 3 5 によって増強される。光増強管 3 5 によって増強された赤の波長成分の光は、CCD カメラ 3 7 によって撮像され、画像信号に対応する電荷が蓄積される。

【 0 0 2 8 】

時点 t_2 において、(E) に示すように CCD 電荷読み出し信号が立ち上がり、これによって CCD カメラ 3 7 に蓄積されていた赤の波長成分の画像信号に対応する電荷が、RGB コントロールユニット 3 の RGB フレームメモリ 4 2 に出力される。時点 t_2 から t_3 の期間において、(C) に示すように回転している RGB フィルタ 3 3 の G 領域 3 3 b を微弱光が透過する。透過した微弱光の緑の波長成分は、光増強管 3 5 に入射するが、(D) に示すように光増強管 3 5 のゲート機能により、G 領域 3 3 b を透過する有効成分のみが光増強管 3 5 によって増強される。光増強管 3 5 によって増強された緑の波長成分の光は、CCD カメラ 3 7 によって撮像され、画像信号に対応する電荷が蓄積される。RGB フレーム

メモリ 4 2 に出力された赤の波長成分の画像信号は、(F) に示すように RGB フレームメモリ 4 2 の Red VFM に書き込まれる。Red VFM に書き込まれた赤の波長成分の画像信号は、画像改善装置 4 3 によって光増強管 3 5 による光の増強で発生する特有の雑音成分を除去される。そして、(K) に示すように走査変換器 4 4 の演算部 (図示せず) に入力される。

【 0 0 2 9 】

時点 t_3 において、(G) に示すように CCD 電荷読み出し信号が立ち上がり、これによって CCD カメラ 3 7 に蓄積されていた緑の波長成分の画像信号に対応する電荷が、RGB コントロールユニット 3 の RGB フレームメモリ 4 2 に出力される。時点 t_3 から t_4 の期間において、(C) に示すように回転している RGB フィルタ 3 3 の B 領域 3 3 c を微弱光が透過する。透過した微弱光の青の波長成分は、光増強管 3 5 に入射するが、(D) に示すように光増強管 3 5 のゲート機能により、B 領域 3 3 c を透過する有効成分のみが光増強管 3 5 によって増強される。光増強管 3 5 によって増強された青の波長成分の光は、CCD カメラ 3 7 によって撮像され、画像信号に対応する電荷が蓄積される。RGB フレームメモリ 4 2 に出力された緑の波長成分の画像信号は、(H) に示すように RGB フレームメモリ 4 2 の Green VFM に書き込まれる。Green VFM に書き込まれた緑の波長成分の画像信号は、画像改善装置 4 3 によって光増強管 3 5 による光の増強で発生する特有の雑音成分を除去される。そして、(K) に示すように走査変換器 4 4 の演算部に入力され、先に入力されていた赤の波長成分の画像信号と重畳される。

【 0 0 3 0 】

この時点で、RGB フィルタ 3 3 は 1 回転し、すべての波長成分の画像が CCD カメラ 3 7 によって撮像される。そして、後述するように撮像されたすべての画像信号を読み出すことによって 1 つのカラー画像を得ることができる。このように、(B) に示すビデオ信号 VD の 3 クロックで 1 つのカラー画像が作成されるため、20 Hz で変化するカラー画像が得られる。また、これ以降、図 7 に示す (A) から (D) の動作は、時点 t_1 からの繰り返しになり、これに応じて CCD 電荷の読み出し等の動作も繰り返しになるため説明を省略する。

【0031】

時点 t_4 において、(I) に示すように CCD 電荷読み出し信号が立ち上がり、これによって CCD カメラ 37 に蓄積されていた青の波長成分の画像信号に対応する電荷が、RGB コントロールユニット 3 の RGB フレームメモリ 42 に出力される。時点 t_4 から t_5 の期間において、RGB フレームメモリ 42 に出力された青の波長成分の画像信号は、(J) に示すように RGB フレームメモリ 42 の Blue VFM に書き込まれる。Blue VFM に書き込まれた青の波長成分の画像信号は、画像改善装置 43 によって光増強管 35 による光の増強で発生する特有の雑音成分を除去される。そして、(K) に示すように走査変換器 44 の演算部に入力され、先に入力されていた赤および緑の波長成分の画像信号と重畳される。ここで、走査変換器 44 の演算部には赤、緑および青の波長成分の画像信号が重畳された (R+G+B) 画像信号が記憶されている。

【0032】

時点 t_5 において、(L) に示すように (R+G+B) 読み出し信号が立ち上がり、走査変換器 44 の演算部に記憶されている (R+G+B) 画像信号が読み出される。このとき、走査変換器 44 は、接続されている画像を取り込む媒体に応じて、(R+G+B) 画像信号を走査変換する。例えば、モニタ 27 が取り込む画像信号は NTSC 方式に変換される。このとき、走査変換器 44 は、NTSC 方式の画像信号に対応するように (R+G+B) 画像信号を、図 7 の (M) に示される Odd あるいは Even のインターレース走査するため画像信号に変換する。図 1 に示すように、第一実施形態において、画像を取り込む媒体にはモニタ 27 以外に、VTR 28 およびパソコン 29 がある。走査変換器 44 は、(R+G+B) 画像信号をモニタ 27 が取り込む画像信号は NTSC 方式に、VTR 28 が取り込む画像信号は Y/C 信号に、パソコンが取り込む画像信号は RGB 信号にとそれぞれ走査変換する。ここで、パソコン 29 は変換された RGB 信号をインターフェース回路 (I/F) 29a を介して取り込んでいる。取り込まれた画像は、モニタ 27 などによって表示され、観測者が被写体 A のカラー画像を観測することができる。

【0033】

ところで、第一実施形態において、励起光源 2 2 をガン細胞である被写体 A に照射した場合、被写体 A からは波長 6 3 0 n m と 6 9 0 n m にピークを持つ H p D の蛍光が発生する。このとき、被写体 A を第一実施形態の微弱光カラー撮像装置で撮像する場合について説明する。ただし、出力可変な白色光源 2 1 も励起光源 2 2 と共に被写体 A に照射し、被写体 A の周辺の様子も蛍光発光の様子と同時に観察する。

【 0 0 3 4 】

励起光源 2 2 を用いた場合の第一実施形態の作用について説明する。内視鏡 1 1 によってカメラボックス 3 に導かれた被写体 A からの微弱光は、励起光カットフィルタ 3 1 によって微弱光に含まれる励起光成分がカットされる。そして、励起光成分がカットされた微弱光は、結合レンズ 3 2 によって R G B フィルタ 3 3 に入射・透過される。この後の作用は、前述した第一実施形態の作用と同様なので説明を省略する。

【 0 0 3 5 】

第一実施形態の微弱光カラー撮像装置で撮像された被写体 A からの波長 6 3 0 n m および 6 9 0 n m の H p D の蛍光は、赤の波長成分に含まれる。このため、撮像された画像が表示されるモニタ 2 7 において、被写体 A 周辺の様子と共に H p D の蛍光が表示される。しかし、蛍光が非常に微弱な場合あるいは照明光の光強度が強い場合、白色光源 2 1 が照射した被写体 A の照明光に蛍光が埋もれてしまうため撮像した画像からは蛍光を視認することができない。そのため、蛍光が視認でき且つ被写体 A 周辺の様子も観察できるように、モニタ 2 7 に表示されている被写体 A の画像を観察しながら、被写体 A で反射・散乱等することにより内視鏡 1 1 に入射する白色光源 2 1 からの光の強度が、被写体 A から内視鏡 1 1 に入射する蛍光の光強度と同等または同等以下となる範囲で白色光源 2 1 の出力を適宜調節する。これにより、被写体 A において蛍光が発生している場所を観測者が視認できるようになり、P D D を容易に行うことが可能になる。また、P D D によりガン細胞の部位が確定したら、励起光源 2 2 を治療用光源 2 3 に交換することにより、その場で P D T を行うことが可能になる。

【 0 0 3 6 】

以上のように第一実施形態の微弱光撮像装置は、被写体AからのH p Dの蛍光を含む微弱光をカラー且つ動画で撮像することが可能であり、白色光源21の出力を調節することによって被写体Aの周辺の画像と共にH p Dの蛍光を視認できるカラー画像を得ることができる。

【0037】

次に、図8を参照して、本発明の第二実施形態について説明する。

【0038】

図8は、第二実施形態の概略図を示す図である。第二実施形態は、微弱光カラー撮像装置をマクロ撮像に適用した実施形態であり、例えば手術などにおいて被写体Aが眼下にさらされており、被写体Aを直接撮像できる場合に適用される実施形態である。ただし、第一実施形態と同様に、生体にはあらかじめH p Dが注入されているとする。図8に示すように、第二実施形態の微弱光カラー撮像装置は、2種類の光源21および22と、被写体Aを所定の倍率で拡大するズームレンズ15と、被写体Aからの微弱光を赤、緑および青の各波長成分毎に増強し撮像するカメラボックス3と、撮像された各波長成分の画像信号を演算して一つの画像を得るRGBコントロールユニット4と、得られた画像を表示・記録するモニタ27、VTR28およびパソコン29と、その他付随する装置類とを備えている。

【0039】

更に詳細に説明すると、第二実施形態の微弱光カラー撮像装置は、ガン細胞である被写体Aに照明光を照射する出力可変な白色光源21と、励起光を照射し被写体Aに蓄積されているH p Dを励起させ蛍光を発生させる励起光源22を有している。第一実施形態と異なり、被写体Aが眼下にさらされているため、白色光源21からの照明光をライトガイドなどを介さずに直接被写体Aに照射することができる。また、励起光源22はファイバ導光され、被写体Aに励起光が照射されるようになっている。

【0040】

また、第二実施形態の微弱光カラー撮像装置は、被写体Aから反射散乱されたH p Dを励起する励起光をカットする励起光カットフィルタ14と、被写体Aか

らの微弱光を所定の倍率に拡大するズームレンズ15と、励起光カットフィルタ14を回転させることにより使用する励起光の波長に対応する励起光カットフィルタにフィルタを交換したり、励起光を照射していない場合に被写体Aからの微弱光をフィルタを介さずにズームレンズ15に入射させるように制御するフィルタ交換器16と、ズームレンズ15の拡大倍率を制御するズームコントローラ17とを有している。励起光カットフィルタ14は、第一実施形態では図1に示すようにカメラボックス3が具備していたが、第二実施形態ではカメラボックス3の内部ではなく外部に備えられている。

【0041】

更に、第二実施形態の微弱光カラー撮像装置は被写体Aからの微弱光を撮像するカメラボックス3と、カメラボックス3で撮像された微弱光の赤、緑および青の各波長成分の画像信号を記憶し、画像を取り込む媒体に応じた画像信号に変換するRGBコントロールユニット4を備えている。カメラボックス3およびRGBコントロールユニット4内部の構成は、図1に示す微弱光カラー撮像装置の第一実施形態と同様である。ただし、前述したように、カメラボックス3内に具備されていた励起光カットフィルタ31は、第二実施形態ではカメラボックス3内部ではなく被写体Aとカメラボックス3との間に配置されている。

【0042】

また、第一実施形態と同様に、RGBコントロールユニット4内部に具備されているCCU41から送られてくる頭出し信号に同期して、カメラボックス3内部のRGBフィルタ33の回転を制御するRGBフィルタコントローラ25と、CCU41から送られてくる信号に同期して、カメラボックス3内部の光増強管35のゲート機能を制御する光増強管電源26とを備えている。また、撮像した画像信号を取り込む媒体として、モニタ27、VTR28およびパソコン29が備えられている。ここで、パソコン29はRGBコントロールユニット4で走査変換されたRGB信号をインターフェース回路29aを介して取り込み、画像を表示している。

【0043】

次に、図8を参照して、第二実施形態の微弱光カラー撮像装置の作用について

説明する。まず、被写体 A に白色光源 2 1 および励起光源 2 2 を照射する。被写体 A からの H p D の蛍光を含む微弱光は、励起光カットフィルタ 1 4 を介してズームレンズ 1 5 に入射する。ズームレンズ 1 5 は所定の倍率で微弱光による被写体 A の画像を拡大し、カメラボックス 3 に入射させる。カメラボックス 3 以降の作用は第一実施形態と同様であるので省略する。

【 0 0 4 4 】

以上のように第二実施形態では、本発明にかかる微弱光カラー撮像装置をレンズマウントし、眼下にさらされている被写体 A のマクロ撮像に応用することが可能である。そして、被写体 A からの H p D の蛍光成分を含む微弱光をカラー且つ動画で撮像することが可能であり、被写体 A で反射・散乱等することによりカメラボックス 3 に入射する白色光源 2 1 からの光の強度が、被写体 A からのカメラボックス 3 に入射する蛍光の光強度と同等または同等以下となる範囲において白色光源 2 1 の出力を調節することにより、被写体 A に含まれた H p D の蛍光を被写体 A 周辺の様子と共に視認できるカラー画像を得ることができる。

【 0 0 4 5 】

なお、本発明は第一および第二実施形態に限られるものではない。例えば、R G B フィルタ 3 3 を透過した微弱光の有効成分のみを C C D カメラ 3 7 で撮像したい場合、第一実施形態および第二実施形態では光増強管 3 5 のゲート機能を利用したが、C C D カメラ 3 7 のシャッター機能を利用して増強された微弱光の有効成分のみを撮像することも可能である。また、V T R 2 8 は走査変換器 4 4 に接続されていたが、モニタ 2 7 に接続することによりモニタ 2 7 に表示された画像を取り込む（録画する）ようにしてもよい。また、本発明の微弱光カラー撮像装置を第二実施形態と同様にレンズマウントし、顕微鏡に適用してミクロ撮像を行う応用例なども考えられる。

【 0 0 4 6 】

【発明の効果】

以上詳細に説明したように、本発明の微弱光カラー撮像装置によれば、被写体からの微弱光が R G B フィルタを透過し、光増強管で増強されることによってカラー且つ動画で被写体 A の画像を撮像することが可能である。

【 0 0 4 7 】

また、微弱な H p D からの蛍光が、被写体に照射されている照明光に埋もれてしまわない様に、照明光を照射する白色光源の出力を調節することにより、H p D の蛍光と共に被写体周辺の画像を撮像することができる。このため、被写体における H p D の蛍光部位を視認できるようになり、容易に P D D を行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第一実施形態にかかる微弱光カラー撮像装置の概略図を示した図である。

【図 2】

出力可変な白色光源 2 1 の構成を示す図である。

【図 3】

H p D を注入したガン細胞を有する生体の各部位における H p D の蛍光強度を示す図である。

【図 4】

R G B フィルタの波長透過特性を示す図である。

【図 5】

第一実施形態を構成する R G B フィルタの 4 分割にされたフィルタ構成を示す図である。

【図 6】

光増強管の波長増強特性を示す図である。

【図 7】

本発明の第一実施形態にかかる微弱光カラー撮像装置の作用のタイミングチャートを示す図である。

【図 8】

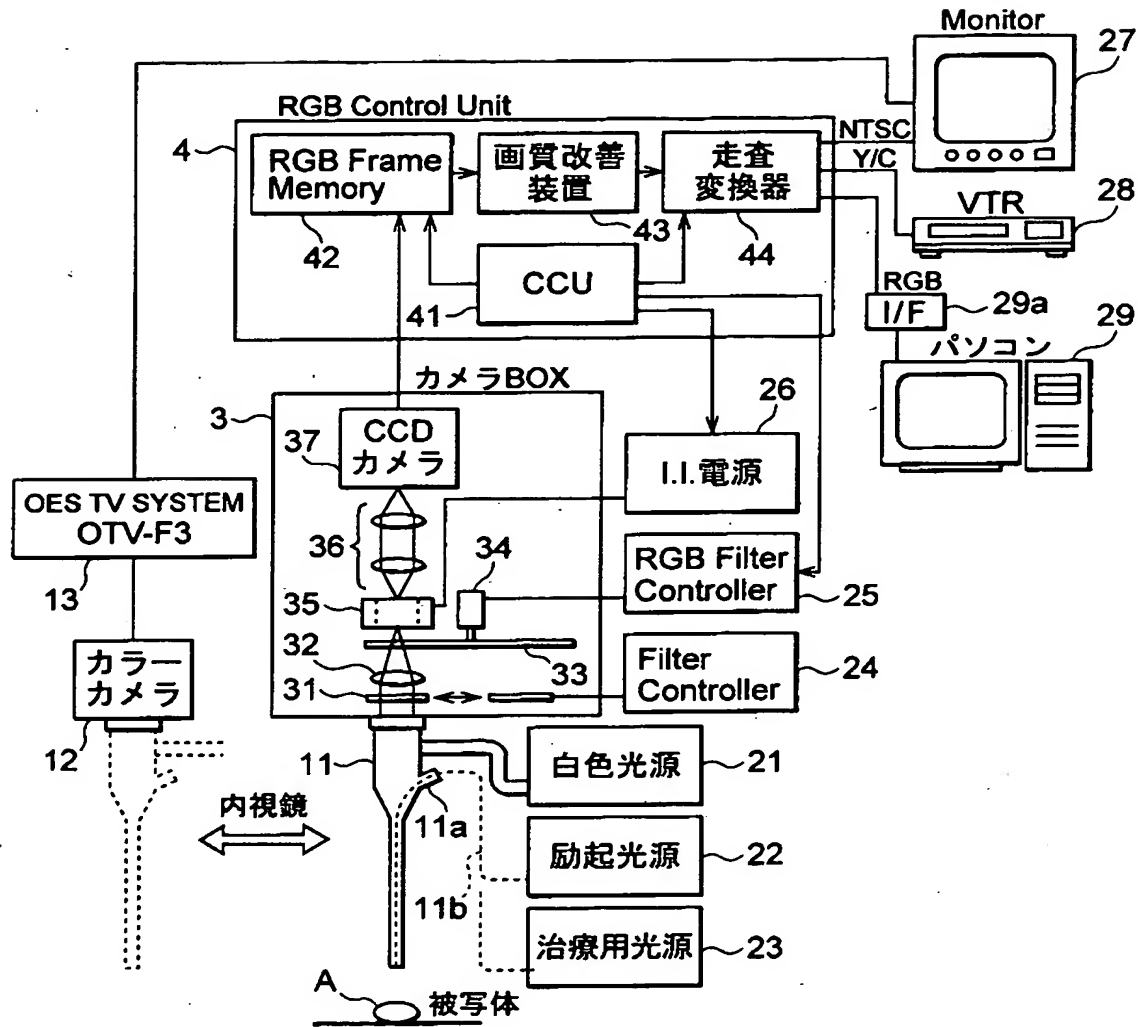
本発明の第二実施形態にかかる微弱光カラー撮像装置の概略図を示す図である。

【符号の説明】

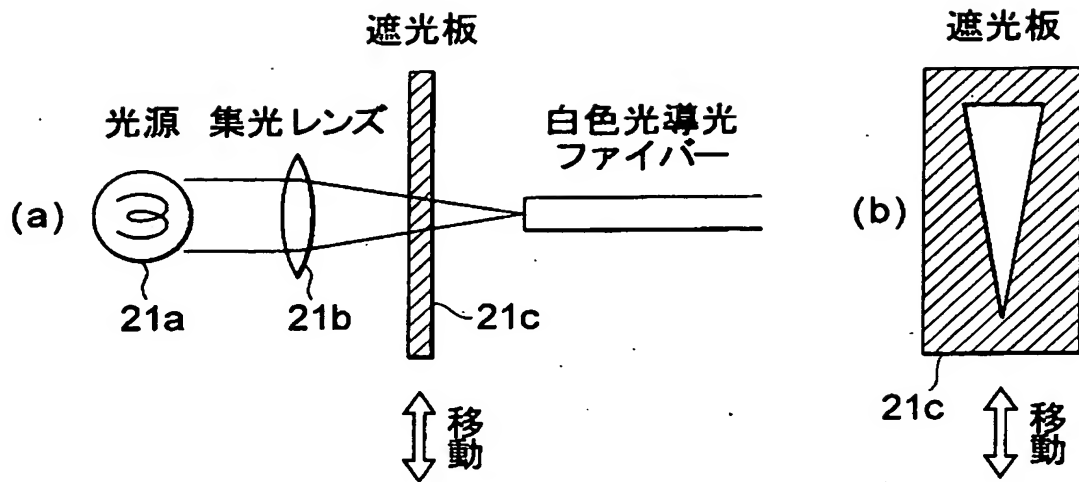
3 …カメラボックス、4 …RGB コントロールユニット、2 1 …白色光源、2
2 …励起光源、2 3 …治療用光源、2 4 …フィルタコントローラ、2 5 …RGB
フィルタコントローラ、2 6 …光増強管電源、2 7 …モニタ、2 8 …VTR、2
9 …パソコン、3 1 …励起光カットフィルタ、3 2 …結合レンズ、3 3 …RGB
フィルタ、3 4 …回転モータ、3 5 …光増強管、3 6 …リレーレンズ、3 7 …C
CD カメラ、4 1 …CCU、4 2 …RGB フレームメモリ、4 3 …画質改善装置
、4 4 …走査変換器

【書類名】 図面

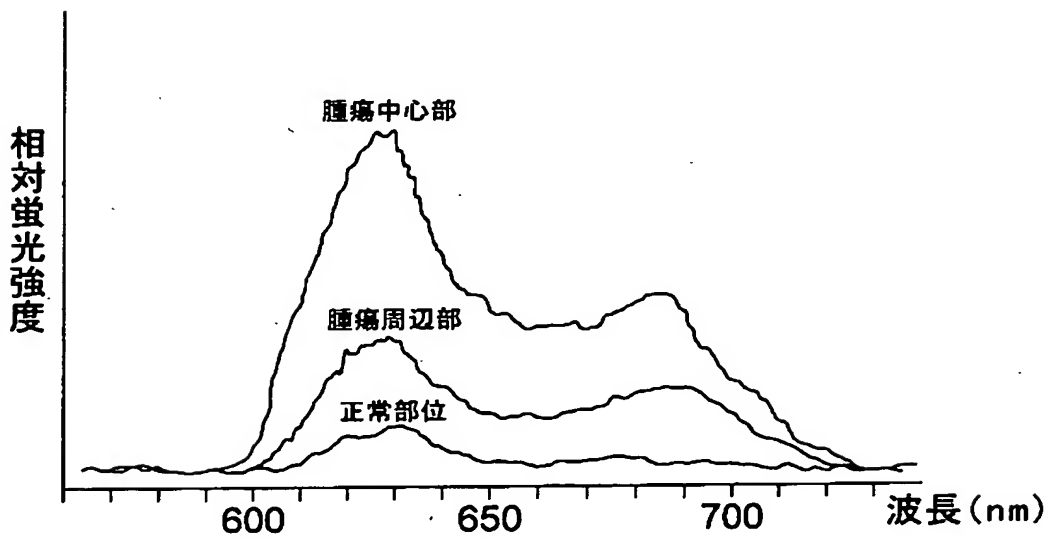
【図 1】



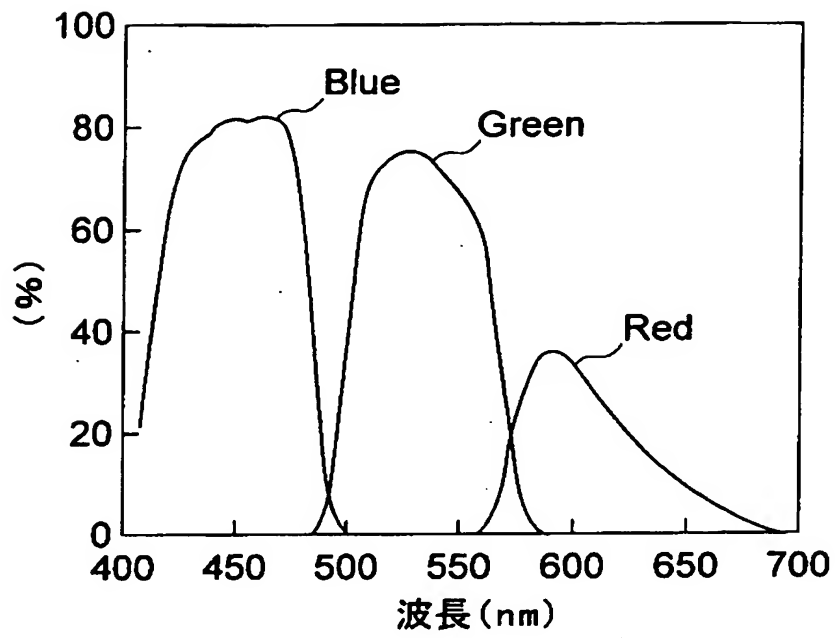
【図 2】



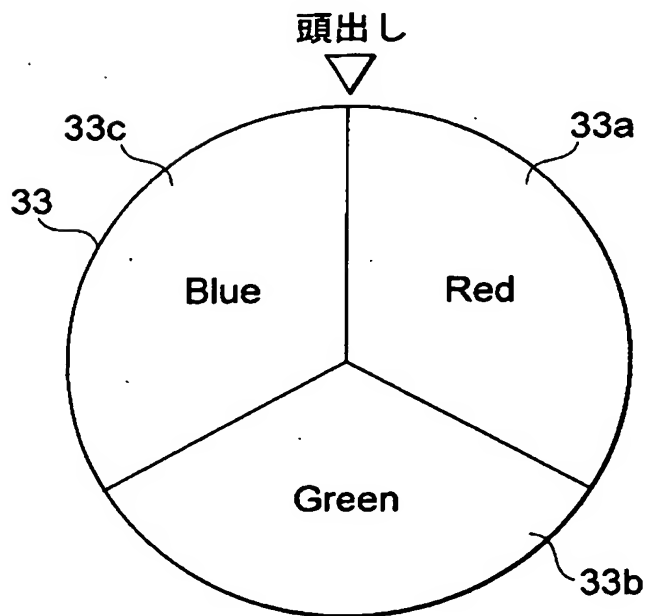
【図 3】



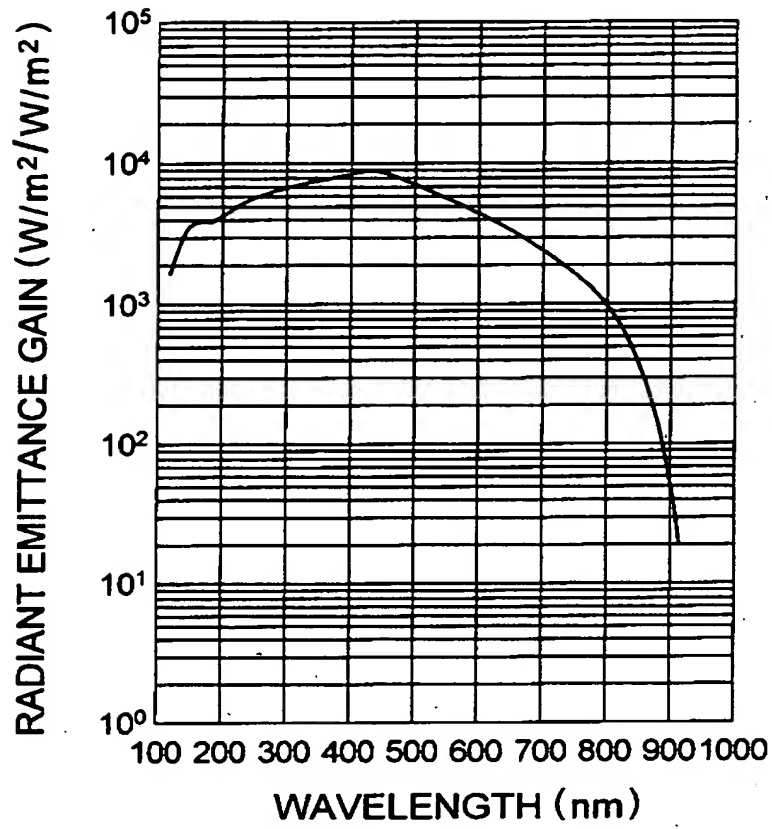
【図 4】



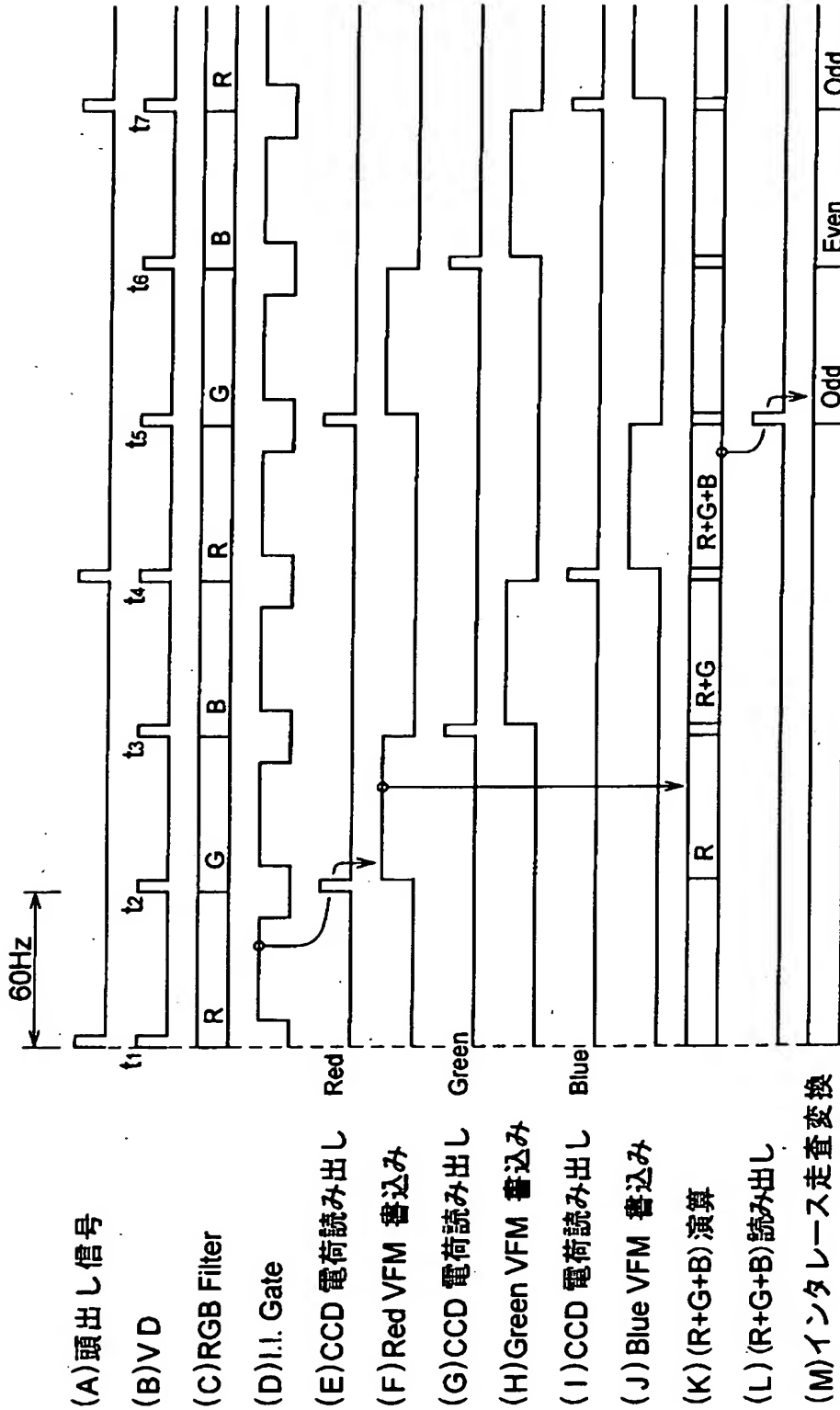
【図 5】



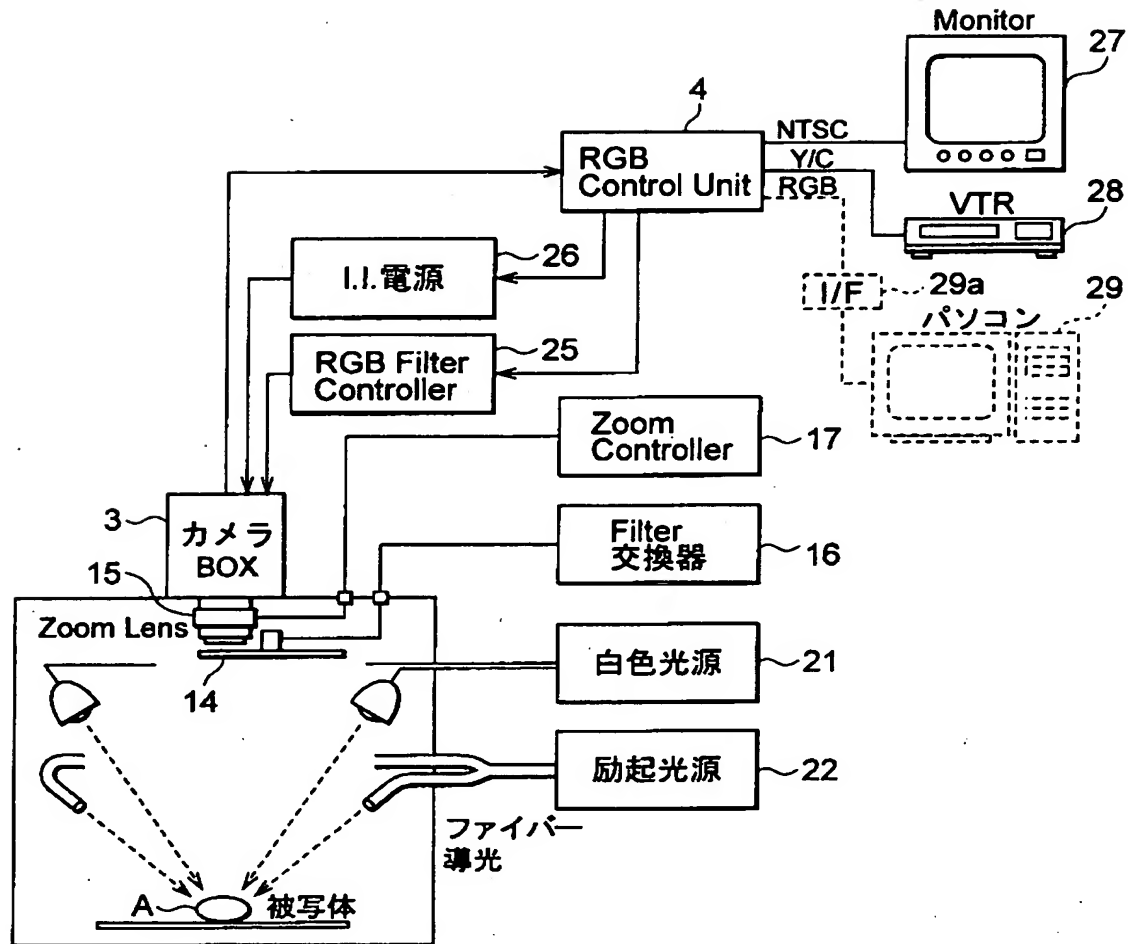
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ガン細胞に蓄積された光感受性物質からの微弱な蛍光を鮮明に撮像できる微弱光カラー撮像装置を提供する。

【解決手段】 本発明にかかる微弱光カラー撮像装置は、被写体 A を照明する出力可変な白色光源 2 1 と、被写体 A に励起光を照射する励起光源 2 2 と、被写体 A からの微弱光の赤、緑および青の各波長成分をそれぞれ透過させる RGB フィルタ 3 3 と、RGB フィルタ 3 3 を透過した被写体 A からの微弱光の各波長成分の光強度を増強する光増強管 3 5 と、増強された被写体 A からの各波長成分の画像を撮像する CCD カメラ 3 7 と、撮像された各波長成分の画像信号をそれぞれ記憶する RGB フレームメモリ 4 1 と、RGB フレームメモリ 4 1 に記憶された各波長成分の画像信号を重畳し、カラー画像信号に走査変換する走査変換器 4 4 と、カラー画像信号をカラー画像として表示するモニタ 2 7 とを備えることを特徴とする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000236436]

1. 変更年月日 1990年 8月10日
[変更理由] 新規登録
住 所 静岡県浜松市市野町1126番地の1
氏 名 浜松ホトニクス株式会社